

がまごおり「みらいキャンバス」基本計画(案) 提出された意見及び市の考え方

No.	提出者	意見内容	意見に対する回答
1	A	豊橋のマチナカ図書館と昭和区のステーションAIのような次の世代が成長できるような施設にしてほしい。 現在の蒲郡図書館は勉強する人で座れない時がある。勉強する人とデスクワークできる人スペースが多く確保するようにしてほしい。 新聞はもちろん、ビジネス書を今より拡充して欲しい。 複合施設となると、勉強する人やPCで仕事に取り組む人が集中して取り込めるように高齢者やアクティブな活動をするスペースとは階層を分けるなど隔離してほしい。 3、4階を図書館とコワーキングスペースにして一階をアクティブな活動のスペースにするなど。 またコーヒーを飲みながら、スタートアップなどが交流できるなど次の世代が活躍できるようなコワーキングスペースを作してほしい。 スタバなど人気のある企業を誘致し、付加価値を向上し魅力ある施設にしてほしい。食堂などもあるといいと思います。 みらいキャンバスがあるから移住したいと思って貰えるように若い世代を中心に活躍できるような施設にしてほしい。	ご意見ありがとうございます。 本施設では、個人用の学習スペースのほか、グループ学習スペースやミーティングスペースなど多様な学習環境を整備していきたいと考えております。なお、会議室などの諸室においても、利用がない場合は学習スペースとして開放するなど、柔軟な使い方を検討していきたいと考えております。 また、多様な知的好奇心に応え、学びを支援できるような資料の収集・提供などを実施していきたいと考えております。資料の選定に際しては、求められる資料、ニーズ把握や、施設内外における情報を積極的に収集することも行いたいと考えております。 階数や配置などの施設構成については、今後民間事業者等からの提案を受けて、より良い方向に更新していくため、現時点で決まっているものではありません。 9つの場(49-53ページ)に基づき、市民の方が多様な学びの体験や発信が可能な活動に繋がるスペースや飲食をして過ごすことができるような場について実現していきたいと考えております。 本施設を起点とし、蒲郡市に関わる方々が地域への誇りや愛着を深められるようにしていきたいと考えております。若者世代はもちろん、こどもからシニア世代の方まで、多様な世代の市民の方の居場所、活動拠点となる場を形成していきます。 また、今後においても、他事例も参考にし、検討を進めてまいります。
2	B	・施設が小さく感じました。長く使う施設ですので、5階建て、7階建てなど、もっと大きくすることを考えてほしいです ・この施設が完成することには、寿楽荘が廃止されてしまうと思うので、入浴施設を入れてほしいです ・貸会議室として使える部屋を増やしてほしいです ・スターバックスなど、有名な喫茶店を入れてほしいです ・蒲郡の景色が見られるよう、また、イベントを開催できるよう、屋上を使えるようにしてほしいです ・空き地のとなりの工場に移転するよう交渉を進めてほしいです。移転後に改めて計画を考え直して大きな施設にしてほしいです ・子育ての施設を入れてほしいです。大きな屋内の遊具のある、全天候型の遊び場をつくってほしいです ・図書館の規模が現状より小さくなっていて残念です。少なくとも現状を維持するか、現状より大きなものにしてほしいです	ご意見ありがとうございます。 階数や配置などの施設構成については、今後民間事業者等からの提案を受けて、より良い方向に更新していくため、現時点で決まっているものではありません。 9つの場(49-53ページ)に基づき、市民の方が多様な学びの体験や発信が可能な活動に繋がるスペースや飲食をして過ごすことができるような場について実現していきます。会議室のような固有の部屋だけではなく、開かれたスペースにおいても貸し出しを可能とすることで、活動形態やニーズに柔軟に対応できるようにしていきたいと考えております。 また、イベントの開催や景色といった面も含め、蒲郡市の魅力を感じることができるような施設にしていきたいと考えております。 本事業については、敷地概要に示した事業計画地で進めていきます。 施設の大きさについては、公共施設マネジメントの観点を踏まえ、今後本格的な人口減少、少子高齢化時代の到来を見据えた適正な施設規模にしながらも、充実した事業サービス内容を実現していきたいと考えております。 ご提案いただいた「入浴施設」「全天候型の遊び場」については、導入する機能として想定していませんが、昨今の異常気象への対応や雨天時などのことも踏まえ、こどもの遊び場としては、施設における開かれた空間や年齢の異なるこどもが安心して楽しく遊べる場所を提供していきたいと考えております。 図書館の規模についてですが、現図書館の面積1,986㎡から、みらいキャンバスでは、図書館機能の面積を2,260㎡と現在想定しており、加えて、開かれた空間や共用エリアも含め、全体を図書館として活用することを想定しています。蔵書につきましても、現図書館の開架率40%を本施設では60%とすることを目標に、これまで以上に利用者の方の手に取れる冊数を増やしていきたいと考えており、他機能で必要な面積とのバランスを考慮しながらゆとりある空間を実現していきたいと考えております。
3	C	現在の蒲郡市立図書館を管理運営している経験から、地域資料と新聞雑誌の配架場所は、じっくり集中する場が望ましいと思います。それらの資料を利用するのは高齢の方が多くので、ざわざわしたエリアだと他の利用者との軋轢を産まないか心配です。また、地域資料は入手困難で希少な資料も多いので、保存の観点からもカフェスペースからも離れた方が良いように思います。ざわざわしたエリアでは検索性に優れたデジタル化した資料の提供の方が需要があるように思います。 地域資料のデジタル化、アーカイブ化は重要な事業ですが、著作権の許可を得るのが難しいため、やりたくてもできない現状があります。また、市役所発行の資料も現在では紙媒体になっていないことも多く、図書館が発行の情報を知らないこともあります。そのため主導は市が行うとスムーズに進められると考えます。 電子図書館の蔵書数が2万冊を予定されており、現状の約7倍です。人気のある資料は2年のライセンス契約の資料が多く、その数を維持するコストがかなりかかると思われます。2032年には電子書籍の利用者も現在より増えると思われますが、7倍の利用は難しいのではないのでしょうか。 図書館では、読み聞かせや音訳ボランティアの方々にも協力していただいています。他の市民活動と同等に捉えることもできますが、今後も活動しやすい環境を整えていただきたいと思います。 市内には現在6か所の分室があり、来年度に新たに塩津公民館分室が新設されます。塩津は蔵書数も1万6千冊が予定されており、他の分室より大規模な分室になります。そこで、みらいキャンバスの開館に合わせて、従来の図書館を望む市民のために開館時間をなどをリニューアルしていただければと思います。 図書館は平日の昼間に、誰でも気兼ねなくいられる場所です。本を読みたいだけの人、わいわい過ごしたくない人、機械操作に不慣れな人にも配慮した施設をご計画ください。素敵な施設ができることを期待しています。	ご意見ありがとうございます。 9つの場(49-53ページ)に基づいて実現する場に合わせた配架を行うとともに、静かな場や会話ができる場など、多様な過ごし方ができるようにしていきたいと考えております。 開館後においては、本施設・分室・電子図書を合計した市全体として蔵書数30万冊程度を目指していきますが、これは開館時に満たす訳ではなく、市民ニーズやコンテンツの動向、コスト面を考慮しながら計画的に近づけていくことを検討していきたいと考えております。なお、本施設と分室との連携方法や、市全体として地域資料をはじめとする図書の管理方法についても、検討を進めてまいります。 また、これまでも様々なボランティアの方のご協力をいただいておりますが、今後も、様々な市民の方の主体的な活動を支援する環境や施設にしていきたいと考えております。

No.	提出者	意見内容	意見に対する回答
4	D	I.基本構想 図書館、ホール、生涯学習センターが核ということですが、他の機能をとりにれすぎているように思います。例えば、調理室・寝転がれるスペース・託児は、課題が多いと思います。 ①調理室 ・施設内にいろんな匂いが漂う。 ・害虫が発生しやすい。 ・図書館機能があるのに、火災のリスクがあがる。 料理教室等に関してはこちらではなく、東港の方に新たな施設を設ければイベントにも活用できるのではないのでしょうか。 ②寝転がれるスペース ・床に汗や匂いがしみつく。 例えば、においのキツイ大人が靴を脱いで寝転ぶ空間で、子どもが本を読みたいと言われて、一緒にくつろぐことはできるでしょうか。 ・借りた本を無造作に床に置いたり、ゴロゴロと読んだり、床に置いたまま遊びだした場合でも、利用教育は保護者に任せることになるかと思います。各家庭で基準は違う(注意されない家庭もある)ため、その場で自分の子どもが同じことをした際に大切にしないといけないと教えたくても、隣にいては伝えづらいです。 ③託児 入りたい保育園や児童クラブが満員であったり、保育園の保育士さんや児童クラブのパートさんの確保に苦労されているようなので、まずはそちらの充実を優先していただきたいです。 仮に預かるとしても、預かる子の年齢や人数を考えたら、なかなか難しいと思います。預けたくてもいつも満員、施設の利用じゃないのに預けだす人もでるということにはなりませんか？ 託児については、保育園の園長先生、児童館や児童クラブ等、現場の意見を(無記名等意見の出しやすい環境で)集めていただきたいです。 また、保護者の方がゆっくりされたいのなら、既存のファミリーサポートの利用を促してはいかががでしょうか。	ご意見ありがとうございます。 調理室、寝転がれるスペースや託児をはじめとした施設全体において、音や臭いの対策、安全性や清潔性の確保は当然考慮すべき事項だと考えております。 寝転がれる床をはじめ、どの空間においても、一定のルール設定は必要だと考えておりますので、ご意見いただいた懸念事項も踏まえ、今後の検討を進め、民間事業者等からの提案を求めていくものと考えております。 なお、託児については、保育園や児童クラブの代替ではなく、保護者が文化活動等でこどもと一緒にいることが難しいときなどに一時的に預かる仕組みだと考えております。 満員や施設利用者以外が預けるという懸念点においては、定員設定や託児の運用ルールを定める際に、その懸念点も踏まえ、より良いサービスとなるように検討していきたいと考えております。 また、ファミリーサポートセンターなど、子育て支援施設や制度との連携も重要だと考えておりますので、そういった点も踏まえ今後も検討を進めていきます。
5	D	II.図書館について ①基本条件 現在の蔵書数と目指される蔵書数は、電子図書館が含まれているのとそうでないのを見ると、結局は同じ28万冊ということで間違いないでしょうか。 そうなる目標とされる、児童書を増やし、開架は現状より20%拡充、鮮度もあげて、ゆとりのあるスペースも確保。こちらはどれだけの一般書を除籍して、どれだけの本を購入されるか検討されての数字なのでしょうか。閉架の本を開架に置くことは手に取りやすくなるので賛成ですが、これと同時に鮮度をあげることは難しいと思います。こちらは開館時と何年か先のどちらの目標となるのでしょうか。 ②施設内のいろんなスペースに配架する案 ・探しにくい(読みたい本を探す、調べものをする時は1カ所のフロアに固まっていてほしい。職員に依頼しても集めるのに時間がかかる。) ・盗難、汚破損(雑な扱いをされていても職員の目が届かない。本にチップがついていないので、簡単に持ち出してしまう。) ・施設内での取り扱いの管理がしづらい(違うフロアの棚に適当に置いて帰る。借りてない本をカフェに持ち込む。) 詳しくは後に記載してありますが、図書館は1フロアに固めた方がよいように思います。 ③地域資料コーナー 最新の市の動向・データ・記録が紙の資料としても並んでいると、来館した人の目の触れて市のアピールとなるので大変よい案だと思います。 市民全体への公開はホームページ、こちらの施設では紙でも閲覧可能とするとインターネットが苦手な人にも喜ばれると思います。 なお地域資料とは別に、郷土資料については貴重な資料がたくさんあるので、今の図書館のような管理された郷土資料室があるとよいと思いますが、スペースの確保はされているのでしょうか。 ④みらいキャンパスにふさわしい鮮度の高い選書 現在の図書館では毎月1,000冊新しい本が入っているようですが、それ以上を目指されるのでしょうか。 鮮度をあげるためには、ベストセラーやロングセラーの小説や絵本もどんどん廃棄していくことになると思います。 また、高額な専門書を期待される意見をみましたが、各ジャンルの専門書を集め、常に最新を求めるための予算は継続して確保されるのでしょうか。はじめだけ買い揃えても数年後には古い情報になります。専門書は他市や大学図書館の力もお借りした方がよいかと思います。 人気の本が棚にないのは予約順にたくさんの人に読まれているということなので、読みたいときは予約をされたらよいと思います。 また、みらいキャンパスにふさわしい資料と、現在の図書館の資料との違いはあるのでしょうか。	現図書館の蔵書数は、約26万冊、分室や電子図書を合わせると約28万冊となります。 本施設の開館後に、市全体として目指す蔵書数は、本施設25万冊、電子図書館2万冊、図書館分室3万冊の合計30万冊となります。 開館時から目標冊数である30万冊を満たす訳ではなく、計画的に近づけていきたいと考えております。なお、計画的な新規購入や除籍を行うことにより、新鮮度を保つようにしていきたいと考えおります。 なお、移転時には、現図書館資料全体の除籍を行い、移転する資料を整理するとともに、新規購入を行います。 詳細については、今後の管理運営計画の段階で精査・検討をしていくことを考えております。 施設内の様々なスペースに蔵書を配架する方法は、近年の施設事例にもみられます(例 大和市文化創造拠点シリウス:蔵書約51万冊を施設全体に配架し、図書館機能が全体に広がっている)。 また、本施設においては、「じっくり集中する場」のようなコアな図書館機能を持ちつつ、活動に合わせた配架を行う、ハイブリッドな形式を想定しています。なお、地域資料・郷土資料いずれにおいても適切な管理運営方法を今後の段階において検討していきます。 みらいキャンパスにおいては、既存のニーズにも配慮しつつ、他では出会えないテーマや視点の本を積極的に集め、思考や創造の幅を広げることができる蔵書構成を目指します。実現するための費用については、今後も精査・検討を進めていきます。
6	D	Ⅲ.生涯学習 講座が開催される部屋は参加人数にばらつきがあるかと思しますので、都度部屋が仕切れて有効活用できるとよいと思います。 また、静かに黙々と勉強する部屋と勉強の質問をしたり声の出せる学習スペース(こちらは部屋で仕切らずフロア内でよいので)の両方あるといいなと思います。	おっしゃる通り、参加人数や活動形態に合わせ対応することができる可変性のある施設づくりに努めていきたいと思います。 それが、時代とともに変化する市民ニーズに対応できる柔軟性・成長性のある施設に繋がると考えております。 また、9つの場(49-53ページ)に基づき、静かな場や声を出せる場についても設けていきたいと考えております。
7	D	Ⅳ.施設の空間イメージ 連携は大切にしていきたいですが、空間は別が良いです。下記に案を記載しましたが、各機能毎でフロアを別とした方が管理もしやすいのではないのでしょうか。 【3階】子育て、生涯学習、学習室 日々利用されることが予想されるので、3階とすることで他の場所も見てもらえる可能性がうまれる。 景色がよく、学生や子育て中の保護者の気晴らしにもなる。 上の子は勉強、下の子は遊び場で同じフロアで保護者が安心できる。 【2階】図書館 資料の量と保管を考えると、フロア全体を図書館にされた方が効率がよくなる。 別の階に持ち出すときは貸出の手続きをすると盗難等の防止つながる。 【1階】ホール、展示、地域資料、カフェ ふらっときた人にもゆつくりした空間を提供できる。 講演等のイベントで多くの人が来館されても人の動きが少なく済む。 施設には滞在しないけど、カフェの飲み物を買いたいだけの人も利用しやすい。	本施設では、9つの場(49-53ページ)に基づき、機能を越えて空間が融合・連携をしていきますが、開かれた空間や閉じた空間のバランスは重要だと考えております。 ご懸念の事項を踏まえ、今後の管理運営計画段階や設計段階においての検討を進めていきたいと考えております。

No.	提出者	意見内容	意見に対する回答
8	D	V.その他 ①デザインより機能性 ・本棚はお年寄りや子どもにも配慮し、低い位置や高い位置に本がない。 ・人がいると本が取ることができない不便な棚(ベンチ風や遊び場に併設)は避ける。 ・図書館フロアや展示コーナー付近は資料の日焼け防止のため、ガラスを減らすか赤外線カットのものにする。 ・椅子等は汚れたら拭ける素材。 上記のように、施設内の設備等は一時的な見映えの良いものではなく、機能重視の長く使えるものを希望します。 ②駐車場 ・大きなイベント開催時のみであればよいですが、常時有料にしまうと、近隣の人や各駅から自宅が近い人はいいですが、該当しない人は講演会、読書、遊び、くつろぎ等、すべて遠ざかってしまいます。一部の人だけが得をするのはどうかと思います。 ・駐車場の台数を来観者数で見積もられているようですが、職員の駐車台数は予想されているのでしょうか。 ・以前意見のでていた立体駐車車で防災にもなるという案についても、なぜ採用されないのかご回答いただきたいです。 ③つながり イベント後の交流は責任をもたないとされる場合であっても、市の施設で繋がったことを認識し、安全重視で開催していただきたいです。特に子どもや高齢者が参加する場合は、わかりやすい説明等も必要かと思います。 ④調査 市民にアンケート、ワークショップや小学生等へ意見を集められていますが、各施設を現在利用している市民に対しては調査されないのでしょうか。今回パブリックコメントを募集されていますが、市民には浸透していないように思います。新しい層の利用を促すことも大切ですが、現利用者の意見も採用していただきたいです。施設を利用している市民に対してアンケートをするか、すでに各施設でアンケートしているのであればそちらから意見を抽出していただきたいです。	デザインも重要な要素のひとつだと考えておりますが、施設利便性や機能性についても求めていきたいと考えております。 駐車場につきましては、蒲郡駅周辺エリアという立地を鑑み、施設利用者のための駐車スペースを確保するためにも有料駐車場で検討しております。しかしながら、本の借用など短時間の利用により料金が発生することは望ましくないと考えておりますので、一定時間の無料などについては管理運営計画において検討していきます。 また、施設利用者の駐車場のほか、関係者駐車場や従事者駐車場の確保、駐車場の配置や設計も含めて民間事業者のノウハウを活かした検討を行っていきたいと考えております。 本施設では、活動支援窓口を設置し、活動等に伴う様々な事項・課題に関して相談を受け付けていき、利用者の方が安心して活動することができる施設にしていきたいと考えております。 基本理念「共創」を実現するためにも、これからも本プロジェクトの認知向上に努め、既存の利用者層・新規層の両面に対して意見の抽出をしていきたいと考えております。
9	E	「第2章市民共創」より 市民ワークショップを4回実施されたことで市民の希望が反映された意見があり、共感できることが多数ありました。 市民の意見を取り入れることは大変重要なことで、市民一人ひとりが自分たちの施設だという認識を強く持つことができると思います。 田原市や新城市で複合施設や学校併合などの際、多くの聞き取り調査が行われたと聞きました。 蒲郡市でもよりよいものを目指すため、今後とも利用者や関係者に聞き取り調査を行い、綿密な計画を立てていただきたいと思います。	ご意見ありがとうございます。 今後開館までには、管理運営計画、基本設計、実施設計、工事、開館準備など、多くの段階がありますが、その全ての段階において、市民共創の流れを止めることなく、基本理念「共創」を実現するためにも、市民の方々だけでなく、利用者や関係者と本施設について共に考える機会を設けていきたいと考えております。
10	E	「第4章事業・サービス方針(2)図書館機能」 図書館の機能はまずはじめにインプットがあるかと思います。情報源としての図書館の利活用はもちろんのこと、その先にさまざまなアウトプットがつながっていくことが理想的です。 利用者の興味関心を保つため、鮮度のある資料はもちろんのこと、必要な情報源を整えるための資料を保管するための収蔵能力を高いものにしていただきたいです。 図書館の基本事業は資料の保管・管理です。永年保管資料など年を重ねるごとに増していきます。全国で蒲郡市にしかない資料を状態の良い形で保管できるよう機能面でも充実させてほしいです。 「図書館における主な事業・サービス」 「2.学びのネットワークを活かしたサービス」 とても素晴らしい取り組みの企画だと思います。これを実行するにあたり、市が責任をもって法的手続きを整え未来につなげていっていただきたいと思います。 特にデジタル化による蒲郡アーカイブに期待しています。 みらいキャンパスにて、今まででできなかった行政資料、郷土資料のアーカイブ化が広く行われるということは、今後の蒲郡の資料的財産が増えるということです。 大変喜ばしい、ぜひとも進めていっていただきたい事業です。よろしくお願いいたします。	収蔵能力及び保管資料に関しては、全体の面積との兼ね合いのほか、数だけでなく、その内容等も踏まえ、必要なものについて適切に保管していきたいと考えおります。 蒲郡アーカイブでは、地域資料のみではなく、市内の情報・活動についても、アーカイブできる仕組みを今後検討していきたいと考えております。
11	F	p11 現状の博物館の市民が予約して使うギャラリースペースは博物館のに足を運ぶ数少ない機会である。みらいキャンパスに移動することで博物館の来館者数が少なくなるのではないのか？ p15、中央子育て支援センターについては建設年が平成4年とまだ若い施設である。解体ではなく何かしらの利用を考えてほしい	ご意見ありがとうございます。 ギャラリースペースの移設により、博物館と本施設が連携し、相乗効果が発生するような取り組みを検討していきたいと考えております。 中央子育て支援センターの建物については、機能移転後も市の施設として保有することは考えておりません。そのため現時点では建物を解体し、跡地の活用を別途検討していく想定ですが、建物を含めた売却等の可能性も今後検討してまいります。
12	F	p24、基本方針が、今充実している人がもっと充実させる施設に見える。それだけではよくないと思う。悩みを抱えている人が支援できる施設になってほしい。またp6には自宅、職場、学校以外の居心地の良い第3の居場所とあるが、生活が充実して、夢もあって、キラキラした人しか集まらないような雰囲気施設の施設づくりは困る。学校に行けなくなったとき、職を失ったときに、病気で将来の見通しが立たなくなってしまったときなど人生に大きな悩みが訪れたときに自分を立て直せるような施設づくりを目指してほしい	9つの場(49-53ページ)に基づき整備される多様な空間に、多様な方々が日常的に集まり憩いの場となるような施設を目指していきたいと考えおります。また、ヒト・モノ・コトを通し多様な価値観に触れられたり、抛りどころとなるような施設を目指していきたいと考えております。
13	F	p41、子育てについて小学生以下の親を持つ子の支援に感じる。中高生の子を持つ親が、学校や先生以外にも相談できる場所にしてほしい。 p41、未来につながる「やりたい」ことを見つかるというが、子どもたちが働く、就職を考えることができる場所にしてほしい。まだ働いたことがない若者が、家庭や学校以外で働くことを学ぶ、探す施設がない。 p41、児童館との役割の違いは何か？市内には子育て系の施設が多い。大きな建物が作られることにより、地域の児童館の利点が失われるのは困る。	こどもの年齢に関わらず子育て中の親が相談でき、支援が必要な場合は、こども家庭センターや子ども・若者相談窓口などの専門的な機関へとつなぐことができるハブ拠点となる施設にしたいと考えております。 また、様々なことを学び、その学んだことを自ら発信・表現できる施設とすることで、将来を考えるきっかけになる施設となるようにしたいと考えております。 児童館は、遊びを通じた健全な育成を目的としていますが、本施設は様々な年代との交流の中で、集い、学び、発信できる施設を目指しております。そのため、本施設は、児童館とは異なる目的の施設であり、現在の児童館の機能を低下させるものではなく、双方の利点を活かすことで、こどもたちのやりたいことが実現でき、よりよい子育て環境の整備に繋がっていくものと考えております。

No.	提出者	意見内容	意見に対する回答
14	F	p81、今回選ばれるDBO方式について、デメリットはないのか？メリットのみが書かれており、誘導されているように感じる。デメリットも伝えたくて、それに対してどう対処していくのかを教えてください。 p87、p6に複合化、集約化により運営の効率化をすすめることで、将来に負担を残さない財政の実現を目指すとともに、利便性が低下しないようにニーズに対応したサービスを提供していくとあるが、建物をつくるのに187億円は大きくないか？まさに将来の負担を課しているように感じる。p6の文言と不一致のようにみえる。 p87、建設工事費177.3億円と予想されているが、図書館や、ホールなど機能別に考えるとどれくらいなのか。大和市のシリウスは同様な施設で160億円である。人口が24万人の大和市で敷地面積は少ないのに160億円なのに人口が8万人を切っている蒲郡市の建設費としては高くないか？ 参考資料：「中小企業政策の経緯・現状」と「中小企業振興基本条例(仮称)制定への視座」 <h ttps://www.city.koshigaya.saitama.jp/kurashi.shisei/shisei/keikaku/kakushukeikaku/shisei/nankoshisyuhen/suncityseibi/seibikon-2_files.05_shiryoushi.pdf>	DBO方式の一般的なデメリットとしては、性能発注となるため、民間ノウハウを活用できる一方で、発注者(市)の意向を細かに反映しにくいという面もありますが、その点に関しては、公募条件や評価基準により一定程度の対策が可能であると考えております。 デメリットよりも、設計、建設、維持管理、運営を一括発注することにより、事業者が早期から地域に入り市民との共創に着手すること、事業の安定性や費用削減効果、サウンディング調査を通して把握した民間ノウハウの活用可能性や民間事業者の参入可能性など、その他にも様々なメリットを鑑みDBO方式を選択しております。 整備費につきましては、大和市のシリウスの開館から9年近くが経過しているため、昨今の物価高騰を考えると単純な比較はできませんが、発注に向けて今後精査を進めてまいります。また、国庫補助金の利用などにより、財政負担の軽減に努めるように事業を進めてまいります。
15	F	図書館、市民会館は市民が最も利用する施設である。だからこそ、ただ利用する人を増やすのではなく、だれかを支える人を増やす場所になってほしい。自己実現をかなえる施設だけで終わってほしくないので、支える人や氣にかけ人たちを増やすような項目も追加してほしい 中心市街地に大きな建物を作ることによって周辺地域の経済効果などはどう考えているのか？居心地の良い場所ができてしまえば、お店に行ってお金をかけるよりはみらいキャンパスで完結してしまう気がする。	本施設では、「学びの循環」といった考え方を定義しておりますが、出会い、学び、発信といったサイクルで相互が支え合う環境を実現することを目指しており、すべてのヒト・モノ・コトが施設内で完結するのではなく、施設外、そしてまち全体にもつながっていくことを期待しております。そのため、中心市街地に本施設を整備することで、これまでなかった施設周辺や蒲郡駅周辺における人の流れが生まれることも期待しているものであり、「まちの活気や明るさを取り戻し、市の活性化につなげたい」という想いを実現していきたいと考えております。
16	G	◎事案1 駐車場について ① みらいキャンパス利用者の利便性を無視してホール利用者用駐車場が整備されないまま、現計画を固執されるのか市民に説明ください。 ② 対策として隣接地の購入、立体駐車場の案をコメントへの回答にされる場合は、確保できる台数を明示ください。 みらいキャンパス基本構想で駐車場に関して「敷地内で確保出来る駐車台数は限られることから駐車場のあり方については引き続き検討します」とあって、パブリックコメント回答で「駐車場課題については、基本計画策定検討及び事業用地周辺道路等環境整備委託業務で詳細に検討していきます」。ということで今回、敷地内で100台～150台とした駐車場計画が提示されました(74Pに必要台数算出式で130台とあります)。但し、この数値130台は図書館利用者を基に算出された数値でみらいキャンパス全体での必要台数は計画の中に入っていません。 この算出式で計算するとホール800席の必要駐車台数は、800席×70%(自動車利用率)÷1.61(台あたり乗車人数)=348台となり上記130台を加えると478台となります。又、200席の多目的ホール、新たな機能施設等を加えれば最大で600台分は必要となります。 そういう状況下で駐車場対策として、次の問題の解消策を明示されず、市役所・市役所職員用駐車場(380台)、公共駐車場(190台)の利用で賄う案が提示されました。	ご意見ありがとうございます。 駐車場に関するご意見ですが、事業予定地は蒲郡駅からの距離も近いという立地であり、公共交通機関でも来館しやすく多世代がアクセスしやすく、通勤、通学動線にもあり気軽な利用が見込めることなどから選定しております。 基本計画の検討において、みらいキャンパスへのアクセス性を検討した結果、施設利用の想定や事業用地周辺の道路状況などを踏まえ、日常利用において不足とならない程度の台数を敷地内に確保し、集客力のあるイベント時は主に休日に開催されることから、周辺の駐車場・駐輪場を活用して対応することを想定しております。 なお、蒲郡駅周辺エリアにおける、今後の公共駐車場及び民営駐車場の動向によっては、想定を見直していく可能性があります。
17	G	1.運営上の問題として ①公共駐車場は、ほぼ毎日満車状態でみらいキャンパス利用者が使える余地は全くありません。使えない公共駐車場は削除してください。 ②平日開催はしないという事でしょうか。 ③複数力所ある市役所職員用駐車場へどのように誘導されますか。 ④誘導責任はどこが担い、誘導コストは誰が負担しますか。 ⑤ホールに来た車と図書館等の施設利用者(車)とどう区別されますか。 ⑥みらいキャンパス従事者駐車場は15台の計画ですがこの根拠は。不足分はどうしますか。 ⑦「DBO方式」を導入するので運営に関しては業務委託先の責務で駐車場対策は市は関与しないというスタンスでしょうか。 ⑧蒲郡市は岡崎市の以下の現状を対岸の火事とお考えでしょうか。」 みらいキャンパス基本構想でのパブリックコメントで「岡崎市民会館がせっかくリニューアルしたのに岡崎市内の同じような音楽団体がかなり幸田町の施設に流れるのは立地もさることながら駐車場の問題が大きいと思います。」というコメントがありました。 実態を調べてみました。岡崎市のホームページで「岡崎市民会館には場内に281台の駐車場がございますが、あおいホールで大きな催事が開催される時や、あおいホールと甲山会館でのイベントが重なる場合などに対応する十分な駐車スペースを有しておりません。ご来館のお客様はできるだけ公共の交通機関でのご来館をお願いいたします。また主催者の方はお客様へ公共の交通機関でのご来館をおすすめしていただきますようお願いいたします。」と注意案内がされています。又、駐車場の混雑予測情報も出していて、ちなみに、この9月は開館日数28日で大変混雑が21日、混雑が7日、空き有りが0日、10月も開館日数29日で大変混雑が18日、混雑が11日、空き有りが0日でした。(岡崎市民会館の概要:大ホール1100席・中ホール300席・リハーサル室120人・会議室6室計で270人収容) みらいキャンパスでは、「みらいキャンパスには場内に150台の駐車場がございますがホールでのイベントや、他の施設でのイベントが重なる場合などに対応する駐車スペースを有しておりません。土、日は市役所、市役所職員用駐車場を開放しますがイベント内容によって十分な対応はできません。ご来館のお客様はできるだけ公共の交通機関でのご来館をお願いいたします。周辺道路への駐車はおやめ下さい。また主催者の方はお客様へ公共の交通機関でのご来館をおすすめしていただきますようお願いいたします。」ということになるのでしょうか。	公共駐車場が全く活用できないとは考えておりませんが、駐車場については、蒲郡駅周辺エリアにおける、今後の公共駐車場及び民営駐車場の動向によっては、想定を見直していく可能性があります。 集客力のあるイベントについては過去実績を踏まえると主に休日に開催されており、本施設においても同様の傾向となると想定しております。 なお、周辺の駐車場への誘導につきましては、イベント主催者が行うものと理解しております。 イベント内容にもよりますが、事前にイベント主催者との調整を行った上で、蒲郡駅周辺エリアという立地も考慮し、公共交通機関での来館を推奨する案内を求めるとともに、本施設のホームページなどにおいても周知していくということもあるものと考えております。 また、施設利用者の駐車場のほか、関係者駐車場や従事者駐車場も含め、民間事業者のノウハウを活かした提案を求めていると考えており、引き続き、市とDBO事業者、それぞれの役割分担についても検討を進めてまいります。
18	G	2.財務上の問題 ①市役所休日のみ使用可能の分散型駐車場の環境ではイベント主催者はホール賃貸料ゼロでも来場者見込めず、駐車場誘導等のコストも掛りコストに合う収益が見込めない等条件的に不利で市の自主イベントのみの使用となり財務を圧迫し、結果的に市の負担増になり将来へ負の遺産となります。 ②ホール稼働率を月2本程度の計画は駐車場問題が原因でしょうか。 ③*6P 上位計画等の中で「複合化・集約化により、運営の効率化を進めることで、将来に負担を残さない財政の実現を目指すとともに、利便性が低下しないよう、ニーズに対応したサービスを提供していきます」とあります。2060年の人口が61,000人と予測される蒲郡市としてコンパクトシティの実現のため、公共施設の複合化、集約化は避けて通れません。しかし、複合化・集約化はあくまで手段で、目的ではないことは計画に携わっているメンバーは充分理解されているはずで、駐車場問題先送りは無理筋です。無理筋を通す組織は健全といえません。もし「そこを何とかするのが担当者(課)の責務」というマネジメントをされているとすればパワハラそのものです。市長の英断を望みます	ホール機能については、運営者が主催する自主事業、市民等がホールを借りて行う発表等のほか、共創機能や生涯学習機能、こども・子育て機能等の各種空間としての活用、日常の居場所の拡張などへの利用を想定しています。これらの利用を鑑みつつ、現市民会館以上の自主事業を行うという意味で月2本程度と設定しているものであり、市民の文化芸術活動をさらに高め、また市民活動をより多角的に支えることを実現していきたいと考えております。 本施設の駐車場については、「No.1」の回答に記載の考え方に基づいたうえで、利便性の確保が充分可能だと考えております。

No.	提出者	意見内容	意見に対する回答
19	G	◎事業2 事業方式 ①DBO方式の採用は「民間業者は資金調達」不要ということで、地元企業への配慮だけではありませんか。ちなみに、豊橋新アリーナ落札業者からの提案として①建設段階では、積極的に地元業者に発注 ②維持管理段階では警備、清掃業務を地元企業に発注 ③維持管理・運営業務従事者は地元採用を検討 とあります。これが、市の要請に沿ったものかどうか分かりませんが少なくとも利用者視点の提案はありません。蒲郡市は、応募業者に対して利用者視点に沿った提案を出すようにしていただきたい。 ②DBOは、金融機関によるモニタリング機能が働きません。これにより、事業収益性が甘くなる可能性が指摘されています。対応策はいかにお考えでしょうか。 ③施設の設計・施工、維持管理、建設・施設管理・運営まで一括して性能発注されますがそこに利用者視点でグランドデザインを取り入れる仕組みはありますか。 ④図書の購入及び廃棄は市と協議できるように契約していただきたい。 ⑤DBO方式の事業スキームで運営者をSPCとしますか。(応募、契約案ではSPC設立を条件としていたが業者選定後その条件を無くした事例あり) ⑥事業期間(契約期間)についてサウンディング調査では業者からは10～15年が望ましいとありますが何年の計画ですか、委託契約料の兼ね合いもあり悩ましいと思いますが、財務力、運営力の優れた事業者を選定するためには少なくとも20、30年で設定していただきたい。 ⑦業者選定に際しては、公正、公平、公開の原則に徹して、いかなる配慮も付度などを排除することを約束する文言を入れてください。 ⑧特定事業者に有利な応募条件、契約書は排除していただきたい。 ⑨情報の公開(みえる化)として、検討委員会及び業者選定審査会等の会議議事録は、市議会議事録同様一言漏らさず発言者名、事業者名は伏せても完全公開していただきたい。(課によって議事録の見える化に大きな差があります) ⑩審議会議の人は議事内容の公表を了承する方にしてください。 ⑪オブザーバーとして例えば、生徒、学生を含めてみらいキャンパスに興味のある一般市民及びプロジェクトチームメンバーで100人ほど参加していただき、会議後参加者から意見徴収をする制度を考えてください。これこそ共創にふさわしいとおもいます。又、検討会、審査会等にも総代を市民代表とするのではなく一般公募を考えていただきたい。 ⑫お金の見える化を徹底してください。 豊橋新アリーナと周辺整備事業の落札額は市が上限としていた230、7億円と僅か300円違いの230億6999万9700円でした。(上限額は豊橋市議のN氏ブログ、落札額は豊橋市発表)上限額は公表されないと認識していますがなぜこんな結果になるのか、蒲郡市行政の公正、公平、公表を信頼しています。	事業方式の決定においては、地元企業への配慮という地域経済の活性化の観点のみではなく、市民共創、事業マネジメント、デザイン性、民間ノウハウの活用、財政負担の軽減、地域経済の活性化の6つの観点での定性評価、定量評価、民間事業者からの意見聴取をもとに総合評価しており、その中でも、市民と共に創り上げ、成長していくという市民共創という観点を定性評価の1つ目に設定しております。 いかなる手法であっても、本プロジェクトの基本理念である「共創」を実現できるよう、設計、施工、維持管理、運営のすべての要素において提案を求めていると考えており、市民のため、利用者のための運営を行ってまいります。 また、図書の購入や廃棄につきましては、市の方針に基づき実施するものと理解しておりますが、そのほか、提供するサービスに関する市とDBO事業者の間の役割分担、運営体制、契約期間、モニタリング方法などについては、今後、さらに検討を進めてまいります。
20	G	◎事業3 総事業費 整備費187億円とありますが、豊橋の新アリーナの建設費150億円(延床20,000㎡/㎡あたり75万円)、隅研吾事務所設計の愛知県新体育館(IGアリーナ)は建設費400億円(延床63,000㎡/㎡あたり63.5万円※いずれも豊橋市議のN氏ブログ)と言われているのでそれと比較するともし建物建設費で187億円とすればかなり高額(延床13,950㎡/㎡あたり135万円)と思いますが、整備費の内訳が無いのでコメントしようがありません。計画書決定時では少なくとも、地代・土地整備費・建物建設費・インフラ整備費・DX整備等のインシャル投資額及び30年間の維持管理費・業務委託費位は概算でも明示ください。	アリーナと本施設では建物の性質が異なるため、単純な建設費の比較は困難ですが、昨今の物価上昇や人件費の高騰を受けまして、特にホールを含む施設については、建物のみならず、舞台設備なども含めて建設単価が上昇している状況です。 本市としましても、施設規模の精査について引き続き行っていくとともに、可能な限り財政負担が抑えられるよう、民間事業者のノウハウを積極的に活用してまいりたいと考えております。 土地整備費や外構費について、基本的なものにおいては、87ページにてお示しした建設工事費の中に含まれております。別途費用については、土地取得費及びインフラ整備費(道路拡幅工事を含む)約20億円を概算費用として見込んでます。システム関連費、備品費、図書費、開館準備費等の費用については、今後において順次検討を行います。
21	G	◎事業4 施設 ① 56P施設規模 ラウンジほっとくつろぐ場 雑誌・新聞コーナー(雑誌154誌、新聞21紙、30席程度)計画ですが、ラウンジは10人程度のベンチ配置にして雑誌・新聞コーナーは止めましょう。雑誌・新聞は、持参して当施設内のアイドルスペースのベンチで読むことは自由にすればよいと思います。雑誌、新聞の購入は無駄です。 ② 55Pみらいキャンパスの空間イメージは、俯瞰して見ているので一見広がった空間に見えますが、中央にホールが配置されて全体を分断しています。図書館機能側は静かな環境にする効果は有りますが、そうするとブレイルームを配置した理由が判りません。又、将来、リニューアル等の障害となります。ご検討いただきたい。本当はホール無しがベスト。 ③ 56P 学習スペース45席との計画ですが現状でも60席で満席状態です。縮小する理由が判りません。100席位まで拡大して、できればデスク面積をもう少し広げていただきたい。(ほぼ学生の利用のため稼働率が低いのは理解できますが、だからと言って縮小するのは本末転倒と思います。 ④ バリアフリー法をクリアすることで「良し」とせず、徹底したユニバーサルデザインの導入することで「これぞ蒲郡市の公共施設」にしてください。間違っても、斬新なデザインだけが利用する人も、働く人にも使い勝手の悪い、優しくない施設にはしないでください。	階数や配置などの施設構成、空間イメージについては、今後民間事業者等からの提案を受けて、より良い方向に更新していくため、現時点で決まっているものではありませんが、市民の居場所、活動拠点となる場としてふさわしい、魅力を感じることができそうな施設にしていきたいと考えております。 また、9つの場(49-53ページ)に基づいた施設構成を実現することにより、多様な方々が多様な過ごし方を実現できる施設にしていきたいと考えております。学習スペースについても、個人用の学習スペースのほか、グループ学習スペースやミーティングスペースなど多様な学習環境を整備していきたいと考えております。なお、会議室などの諸室においても、利用がない場合は学習スペースとして開放するなど、柔軟な使い方を検討していきたいと考えております。
22	G	◎提案事業 1 ホールの件 ①どうしてもホールを未来キャンパスに統合するということであれば、広さもあり、地形も良く、景観も良い立地にある現市民センター敷地(博物館及び博物館西臨時駐車場含む)にみらいキャンパスを建てる。 ②ホールは現市民センター敷地で新設する。 ③ホールは現計画地新設して、ホール以外の施設は現市民センター敷地に建てる。 ④それでも現計画に固執するのであれば最悪、現市民センター東側部分(みらいキャンパスまで直線で400～500メートル)に500台分以上の駐車場の整備をする。(不足する場合拡張の余地がある) ⑤好適地があるにも関わらず手狭な場所に固執するのか市民が納得する説明が欲しい。 *豊橋新アリーナは2500台の駐車場を整備するがそれでも不足するので公共交通機関の利用を促進する。そのために駅からアリーナまで快適に歩いてもらう環境づくりをするとのこと。	みらいキャンパスに移転する公共施設の内容、建設予定地については基本計画案にお示ししているとおりとなります。 なお、本プロジェクトとは別に取り組んでいる東港地区の事業において、東港地区のマスタープランの検討を進める中で、蒲郡駅周辺も含めた各ゾーンの方針や地区内の回遊性に関する考え方を検討しています。関連する事業として事業間で連携してまいります。
23	G	◎提案事業 2 基本計画書(決定)の件 ①計画書の記載内容が理解されることが重要と思います。従って、計画(決定)書公表前に、庁内の従事者の20代～70代の方10名ほどに、良いとか、悪いとかではなく中身の「理解度」をヒヤリングしてわかりやすい内容にして市民へ公開していただきたい。 ②以下の単語と文脈の意味の説明欄を設けてください。 (単語)・ウェルビーイング・サーキュラーシティ・ゼロカーボンシティ・ワークショップ・プラットホーム 以上は、蒲郡市の政策を理解していただくためにも必要。 ・マルチスキル化・デジタルプラットホーム・レファレンス・アウトリーチ・キュレーション・ホワイエ・デジタルサイネージ・インターフェース・メディアアートギャラリー・インクルーシブ ・ライフサイクルコスト・コアタイム・ブランディング・デジタルファブリケーション ・ブックスタート ・リエゾン・サードプレイスは説明有り ・融合・空間・配架・開架・金沢ヒューマン文庫・ウォーカブルなまちづくり ・メディアも情報の「メディア」とは ・場がモードチェンジするの「モードチェンジ」とは (文脈) ・日常的に空間が可変する ・各機能を創造的に融合させる	おっしゃるとおり、基本計画の内容が市民の方に理解していただくことが重要だと考えておりますので、可能な限り表現方法を再検討させていただきます。なお、併せて用語集を追加させていただきます。